

原発がこわい女たちの会
http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/

《 2016年04月 | トップ | 2016年06月 》

検索

2016年05月08日(日)

 検索

原発がこわい女たちの会結成29年のつどい

アーカイブ

「チェルノブイリ30年・福島5年を考える」と題して、今中哲二さんに講演いただきました。4月29日、GWの初日です。参加者は64名。



今中さんは、3月末で京都大学原子炉実験所助教を定年退官されたところで

す。
(女たちの会ニュース97号に詳報。本ブログ4月3日号)
当面は実験所研究員として福島県飯館村を調査続行。核や原子力事故の人や環境への残留放射能の影響について今後も引き続き科研期間を遂行されるそうです。

国立大学の独立法人化後も、お金のための研究をしなくて済んだと感謝。そこは自由にさせてくれた京大の度量の広さか、地方大学とは違って図体が大きいせいか、そして我々は居直る術も知っていたし(笑)と仰ってました。とにかく「原子力と付き合って46年」を広島長崎、スリーマイル、チェルノブイリ、福島と、原子力の利用にともなう問題点を追及しながら、原発推進に反対する数少ない研究者の一人として責任を果たしてこられたのです。

今中さんは、広島出身で被爆2世だが、大学で原子力工学を専攻したのはそのせいではなく、福島原発現地の双葉町商店街に掲げられたPR看板「原子力明るい未来のエネルギー」(当時小学生だった大沼勇治さん作の標語。2015年看板撤去に反対運動が起こった)のような明るいイメージを抱いていたためだそうです。「私も騙され、日本の多くの人が騙されていた」と。そこから原子力の見方が変わったのは、大学で学び社会の動きを知るうちに、後述のような原発政策の胡散臭さに気づいたからと言われました。

「29年のつどい」で松浦代表が挨拶の中でも触れていたが、今中さんや、遡ってすでに退官された熊取の先生方との出会いは、ぺんぺん草時代からのもので、教えられ支えられて女たちの会にとっては本当に貴重な賜物でした。もちろんそれ以外の京大や他大学、在野の先生方にも言い尽くせないほどのお世話になってきたのですが。

講演会終了後の今中さんを囲んでの会食の際にも、40年以上という永のおつとめご苦労様でした、などとだれも言葉にしませんでした。まだこれからもバリバリ働いていただくつもりだから、ご本人もそのおつもりだろうからです。

さてこの日の講演ですが、福島原発事故から5年経った被災地飯館村の現状、スリーマイル、チェルノブイリ原発事故の概要と教訓、そして福島事故の経緯、情報開示の遅れ、直後の飯館村調査、放射線被ばくと障害、子どもの甲状腺ガン、自然放射線との関連、等々これまでの集大成のような多岐にわたるお話し

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)

でした。

とくに示唆深かったことをいくつか、まとめてみます。
 (1)スリーマイル原発事故から学んだのは、①原発の事故はホントに起きる ②炉心の水がなくなったら燃料は溶ける、ということ。
 シビアアクシデントが初めて現実のものになって、それまで定かでなかった炉心溶融(メルトダウン)が実証されたのです。「**原発事故は起きるもの、原発は危ないもの**」ということが骨身にしみた確信に変わったということです。
 チェルノブイリ事故では広大な土地が汚染され、人びとは家を追われ①**地域社会が丸ごと消滅する**、②**原子力専門家として解明できるのは被害全体の一部にすぎない**、ことが分かったと。
 これらの事故の貴重な教訓が福島に生かされたといえるでしょうか。残念ながらNO!である。
 今中さんは「原発は、起きるか起きないか、危険か安全かではない。起きるし、危険なものに決まっている。だから事故が起きたらどれ位危険なのか、リスクの程度や規模を明らかにしていかなければならない」と問題意識を語られました。

(2)誤った情報や不作為、情報隠しなどは許されないことと断罪されるべきです。しかし腹立たしいことに、原子力開発、原発事故においてはウサンくさいことだらけ。(例えば2011年3月の福島原発事故では、メルトダウンは、巷では事故直後からささやかれ既知の事実となっていたのに、東電がそれを認めたのは2か月以上経過してから。遅れたのはメルトダウンの判断基準がなかった為と。ところが5年も経ったつい先ごろ、実はマニュアルに明記されているのがわかったと東電が発表。笑う気にもなれない。)
 次の2つの例を今中さんは挙げられました。

その1、1964年原子力委員会決定の「原子炉立地審査基準」に「**重大事故を越えるような技術的見地から起こるとは考えられない事故の発生を仮想しても、周辺の公衆に著しい放射能災害をあたえないこと(中途省略)**」とある。これをクリアするような原発はありえない。にもかかわらずこれまで、日本のすべての原発はこの基準を充たしているとして建設されてきた。
どんなことが起きても原発は安全です!
 無茶苦茶な論理です。

その2、1960年日本原産会議報告での原発事故の損害評価額は1兆円。当時の国家予算1.7兆円に迫るような、あり得ない程の巨額ですが(チェルノブイリ原発事故では54兆円がはじき出されている。)、電力事業者が賠償すべき保険金の額は50億円(現在は1200億円)にすぎない。それを超えたら原賠法(原子力損害の賠償に関する法律)によって、国が援助することに。
原発事故がとんでもない規模になることは初めから分かっていた!
 福島の事故でも政府は税金や国債を税金や国債を除染などにつぎ込み、その資金の扱いは曖昧なままです。

行政の意思決定や政策実行に係る役人は、組織で動き個人の顔をもたない。政策を裏で仕切りながら、(避難区域の除染政策などにみられるように)そこに間違いや不作為があっても責任が問われることはないのは許し難い。役人の「**個人責任を問う**」システムをつくる必要があると強調されました。

(3)これまで何度も今中さんの講演は聞いてきたが、一貫しているのは、「**データは可能な限り提供しますから、判断は皆さんでしてください**」というスタンスです。例えば原発事故から避難するか否かについて、放射線の汚染の程度を知って決めるのは私たちなのです。
 突っぱねているようだが、私たちに對する深いエールなのだと思います。個々の住民市民は、だれかにいわれて上の方からいわれてそれに従うのではない、自分自身が考え判断して行動する、そのことこそが大切だと。自立した市民たれ、ということなのでしょう。

もう一つ一貫しているのは、余計な被ばくはほしくない方がいい。が、ある程度の被ばくは避けられない(なぜなら福島原発事故による放射能汚染、60年代米ソの大気内核実験からの残留放射能、これらを含む自然からの放射能に囲まれているのだから)。
 この相反する要件に折り合いをつけること、**結局どこまでの被ばくをガマンするのか**、ということになる。(今中さんは、原子力施設からの一般公衆の線量限度を大まかに年間1ミリシーベルトとされる)

そして残念ながら福島原発事故の後、放射能汚染と向き合わねばならない時代に生きることになった私たちは、放射能、放射線について学習し、ベクレル、シーベルトの値になじんでいくほかないのだと。

(4)今中個人として言いたいこととして3点を上げられました。
 ◇避難区域の除染政策を見直し、お金の使い方を考え直すべきだ!
 ◇日本に住んでいる人全部についての被曝量評価を行い、しかるべき健康追跡調査を、国の責任で行うべきだ!
 ◇行政の意思決定や政策実行にかかわる人々、つまり役人や政治家に間違いや不作為があった場合には、ヒアリングを行い、個人責任を問うシステムが必要

2012年09月(2)
 2012年08月(2)
 2012年07月(4)
 2012年06月(4)
 2012年05月(3)
 2012年04月(1)
 2012年03月(1)

最新コメント

[日韓の原発事情、国 by 民守 正義(08/21)
 そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)
 コメントありがとう by sora(12/05)
 突然すみません。東京 by 里美(11/22)
 10/26と11/29のチケッ by 角谷(10/23)
 starさんコメントあり by sora(09/14)
 このブログを読むまで by star(09/13)
 こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)
 現在稼働している大飯 by star(04/09)
 廃炉産業を起こしてほ by kaziharayosiyuki(03/14)

カレンダー

< 2016年05月 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

最新記事

琵琶湖が危ない 老朽原発美浜3号も廃炉に! 11・13
 琵琶湖集会(11/15)
 汐見文隆先生、ありがとうございました(11/08)
 原発がこわい女たちの会ニュース99号発行(10/12)
 高速増殖炉もんじゅ廃炉へ(09/27)
 老朽原発・美浜3号機は廃炉に! パブコメを出そう(08/28)
 ピースボートで韓国古里(コリ)原発を見学してきました(08/21)
 熊本地震の経験から原発の耐震性見直しを要求し、25団体で共同声明を出しました(07/22)
 老朽原発・関西広域連合へ要望書と和歌山県との話し合い(07/17)
 原発のない社会を投票で示そう!(07/05)

だ(前述)！

そもそも日本列島にこんなにも原発を作ったのが間違っていた！
いったん動き出したら止められない日本丸では情けない。間違いを素直に認めて、原発の再稼働は止めるべきである！
と締めくくられた。

講演後の質疑応答でも、原子力、原発事故についての様々な質問が相次ぎ、今中さんは一つ一つに丁寧に答えてくださった。参加者の関心の高さは心強い。

高度成長期を過ぎ衣食住およそ充足した日本、今や人口減に向かった日本。日本のエネルギー需要の変遷と予測を考慮するならば、原発を止めていくには今が一番いい時期だと今中さんも言われる。
経済発展のために原発は必要、の呪文にとらわれることなく、「私たちにとって、未来の子どもたちにとって、原発はホントに必要ですか？」をもっと世に問うていかなければ、と強く思いました。

(5月14日追記)

当日の講演は、YOUTUBE に小谷さんがアップしてくださいました。
https://www.youtube.com/watch?v=zP_eiEJsIB0

熊本地震は想定外の地震活動が続いています。福島原発事故5年。地殻変動が激しい日本で原発の再稼働は犯罪行為ではないのか。

2016-05-08 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#) |

原発がこわい女たちの会
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

[トップ](#)
[記事の投稿](#)
[管理](#)
[RSS](#)
[ログアウト](#)

BLOGariは2017年1月末
サービス終了します

RSS 2.0